

コミズスマシ *Gyrinus curtus* Motschulsky

【選定理由】

かつては名古屋市を含む県内各地で生息が確認され、県内でも普通に生息する種と考えられていたが、近年の確実な生息情報が得られなかった。県内での詳細な状況は不明だが、全国的な状況から 2000 年代以降に絶滅の危険性が高まったものと推測される。

【形態】

体長 5.5~6.2mm。ミズスマシ、ヒメミズスマシに似るが、体長が 6 mm 以下であること、体長は体幅の 1.8 倍以下であること、腹部 2、3 節の基部は後基節に沿って強くくぼまないことなどにより区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市 (佐藤, 1990)、豊田市、設楽町など。

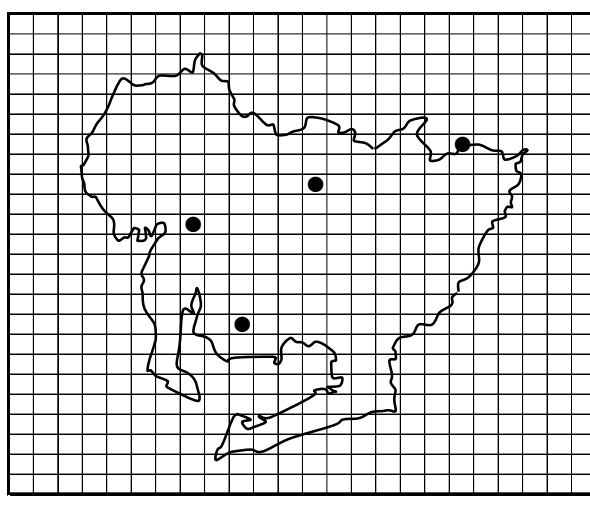
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、サハリン。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

池、沼、水田などの止水域や流れの緩やかな小川。

【現在の生息状況／減少の要因】

1940 年代には名古屋市にも生息しており、1990 年代に豊田市、設楽町で採集された標本が残されている。過去の十分な生息状況の情報はないが、かつては各地の水田、池、小川などに普通の種 (佐藤, 1977) として認識されており、少なくとも 1990 年代までは県内各地に生息していたと思われるが、2000 年代以降の確実な生息情報がもたらされていない。減少が顕著になったのが 2000 年代以降であることから、減少の要因としてオオクチバス等による外来魚による捕食圧、またはネオニコチノイド系農薬による影響を疑う必要がある。

【保全上の留意点】

現在の生息状況を詳しく調査する必要がある。オオクチバス、ブルーギル、コイなどの外来魚の駆除を積極的に行うとともに、減少の関連が疑われるネオニコチノイド系農薬の影響を調査し、その結果により必要な対処をする必要がある。

【引用文献】

佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説. 甲虫ニュース, (37) - (39).
佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫, (上): 204-231. 愛知県.

【関連文献】

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II), 514pp. 保育社.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)